

第 19 回 SAT 賛助会員交流会開催（7 月 26 日（木））のご案内

つくばサイエンス・アカデミー

第 19 回 SAT 賛助会員交流会を下記の要領で開催します。

賛助会員交流会は SAT を支援していただいています賛助会員同士および賛助会員とつくばの研究者との交流会です。賛助会員の事業紹介とともにつくばの研究者による研究紹介を行い、賛助会員と研究者との交流による新しい「知の触発」に繋げていくことも目的としています。事業紹介される賛助会員ばかりでなく、多くの賛助会員、個人会員および一般の方の参加をお願い致します。

申し込み先：メールで宛先 academy@epochal.or.jp まで、

「第 19 回賛助会員交流会参加」と記載し、①氏名、②所属機関・部署・役職、③連絡先（電話、e-mail）、④懇親会（1,000 円/人 当日徴収）の参加・不参加をお知らせください。

問い合わせ先：つくばサイエンス・アカデミー（TEL 029-861-1206）まで

記

日時 2018 年 7 月 26 日（木） 午後 1 時 20 分～6 時 45 分

会場 つくば国際会議場 303 室 および サロンレオ

I. 交流会

午後 1 時 20 分～4 時 45 分

1. 開会挨拶

5 分

2. 賛助会員事業紹介（質疑応答含め各 30 分）

計 60 分

① カゴメ株式会社 イノベーション本部

イノベーション開発部 開発企画 G 主任 東浦拓磨様

「カゴメ株式会社の事業紹介とイノベーション創出に向けた取り組み」

② 株式会社日立製作所

研究開発グループ 材料イノベーションセンタ長 村上 元様

「日立の研究開発の概要と EV 社会に向けた取り組み」

休憩

15 分

3. つくば研究者講演（質疑応答含め各 30 分）

計 60 分

① 農研機構 野菜花き研究部門 野菜生産システム研究領域 領域長 岡田邦彦様

「施設園芸生産システムへの ICT・AI 活用」

② 物質・材料研究機構

ナノ材料科学環境拠点 運営総括室長、リチウム空気電池特別推進チーム長

久保佳実様

「究極の二次電池『リチウム空気電池』」

4. 総合討論

60 分

5. 閉会挨拶

5 分

Ⅱ. 懇親会 交流会終了後（午後 5:00 予定）～6:45

会議場 4 階「サロンレオ」 会費 1000 円

【参考資料】

事業紹介

① カゴメ株式会社 イノベーション本部

イノベーション開発部 開発企画 G 主任

東浦 拓磨様

「カゴメ株式会社の事業紹介とイノベーション創出に向けた取り組み」

概要： カゴメ株式会社は、1899 年にトマトという当時の日本でなじみのない西洋野菜の栽培に挑戦し、のちに加工に取り組んできた歴史があります。以来、畑を原点に野菜と向き合い、新しい食を提案し、今年で 120 年目を迎えました。現在では、野菜飲料、トマトケチャップをはじめとするトマト・野菜に関わりのある商品の製造・販売を行っており、2026 年のありたい姿を「食を通じて社会問題の解決に取り組む、持続的に成長できる強い企業」と定め、企業活動に取り組んでおります。今回、カゴメの現在までの事業や今後のビジョンについて、紹介致します。

② 株式会社日立製作所 研究開発グループ 材料イノベーションセンタ長 村上 元様

「日立の研究開発の概要と EV 社会に向けた取り組み」

概要： 日立グループは、OT、IT、プロダクトを組み合わせ、お客様と社会イノベーション事業を協創する、IoT 時代のイノベーションパートナーをめざしています。CO₂の排出削減など大きな社会課題に対峙し、イノベーションを起こしていくためには、AI などのデジタルテクノロジーの活用と共に、プロダクツの革新がますます重要となっています。本報告では、EV 社会の実現に向けた取組み、そしてそのカギとなる革新的な電池の開発についてご紹介致します。

つくばの研究者講演

① 農研機構 野菜花き研究部門 野菜生産システム研究領域 領域長

岡田邦彦様

「施設園芸生産システムへの ICT・AI 活用」

概要： ヘクタールスケールの施設園芸生産も珍しいものではなくなってきたが、収量の伸び悩みや労働費の経営圧迫が、問題となっているケースが多い。その問題解決のため、ICT を活用して、生産理論に基づく生産管理システムの開発に取り組んでいるが、シス

テムの開発・運用の効率化に、A I活用ポイントを見出している。これらの取組みについて、概説する。

② 物質・材料研究機構

ナノ材料科学環境拠点 運営総括室長、リチウム空気電池特別推進チーム長

久保佳実様

「究極の二次電池『リチウム空気電池』」

概要： リチウム空気電池は、理論的なエネルギー密度が最高となる「究極の二次電池」であり、EV 用や家庭用、あるいは IoT 用など様々な分野への応用が期待されている。しかしながら、充電過電圧の上昇やサイクル特性の低さなど、まだ多くの技術課題が残されている。本講演では、リチウム空気二次電池の概要を説明するとともに、充電過電圧の低減やリチウム金属負極のデンドライト抑制などの基礎研究、さらには実用化を目指した高エネルギー密度スタックの開発などについて、最近の状況を紹介する。